

## 東海女子大学紀要（1～10号）索引

- ・50音順に配列した執筆者別に、掲載論文を刊行号に従い記載。
- ・主題目に続いて、副題は、——をもって示した。
- ・各項目末尾の数字は、掲載の号とページを示す。

〔例〕 10-25……第10号 25頁以降に掲載

〔例〕 3/1……第3号 縦書き頁1頁以降に掲載

### 天沼 香

#### 「大正」時代区分論

—— 小時期区分としての「大正市民主義期」の提唱 1- 61

#### 現代史の方法と思想

—— 民衆を主体とする歴史叙述・歴史研究のために 2- 23

#### カナダにおける初期日本人移民の歴史的状況

—— Collective Biography を中心として 3- 1

#### 移民史への視座

—— 近代日本における移民の位相の認識のために 4- 17

#### 日本民族性論への試論

—— 日本人移民の言動・思考から民族性を考える 5- 1

#### 明治中期国粹主義者の移民観

—— 政教社、杉浦重剛の移民論から 6- 19

#### イデオロギーとしての「共同体」への序論

—— 岩本由輝博士の批判に答えながら 7- 13

#### 福沢諭吉の移民観

—— その女性観と関連させながら 8- 1

#### 原子力研究開発黎明期における中央の動向

—— 政財界・学界・マスコミの対応 9- 1

#### 1950年代半ばにおける日本の原子力事情

—— 原子力研究開発機関設立をめぐる諸状況 10- ①

### 蘭 和真、澤田 文吉、市島 憲郎

表面筋電図のパワースペクトラムからみた筋疲労回復過程 6- 49

持続的等尺性収縮期の発揮張力が筋疲労回復期の表面筋電図に及ぼす影響 7- 27

### 家田 義隆

イギリスにおけるマキャヴェリ思想の受容 4-129

パッツィ陰謀事件再考 6- 61

### 生田 純子

#### 愛情剥奪症候群の家族的・社会的背景

—— 事例をとおして 8- 33

思春期女子登校拒否の治療事例 —— 長い眠りの時を越えて 児童虐待の現状と課題	9 - 87 10 - ⑩
井上 正 オルテガの哲学思想	3 - 89
John Williams Precision, Simplicity, and Restraint in the Literary Work of Anton Chekhov THE JAPANESE STUDENTS AND ENGLISH : Lost in the Mist	3 - 51 6 - 131
大西 信行 教育行政における中等教育観 —— 戦後の学制改革期	3 - 185
大野 憲一 コミュニカティヴ・ランゲージ・ティーチングとリーディング指導へのその示唆 (Communicative Language Teaching and Its Implications to Teaching Reading) Rhetorical Patterns in English and Japanese Prose	7 - 73 10 - ⑦
大野 昭英 ドイツ語訳における諸問題 —— 『佛教聖典』ドイツ語訳の場合 ドイツ語教授法の一具体案	4 - 93 7 - 65
大平 英樹 情動と認知の相互作用に関する社会生理心理学的研究について	10 - ⑪
大宮 録郎 離婚にみる時代の推移と社会の変化 ことわざ論考 —— その社会的機能 迷信・因習論考 県民性の把握とその解明 —— とくに茨城の県民性を例として 家族間の葛藤とその社会的背景 —— 7つの事例から 慣習論考	5 - 29 6 - 147 7 - 97 8 - 49 9 - 121 10 - ⑫
神谷 哲郎 N.カルドアの経済学 —— 最後の著書『均衡なき経済学』を中心にして	7 - 53

川島 大司	
ひらがな入力の学習方法について (1)	6-223
ひらがな入力の学習方法について (2)	7-183
ワード・プロセッサの入力におけるミス・タッチについて	10-②
北村 弘文	
C.イシャウッドの <i>The Berlin Stories</i>	3-73
30年代の主役たち	
—— C.イシャウッドの場合	4-79
プロレタリア詩人 S.スペンダー	6-79
北山 長貴	
中間言語研究：音韻レベルにおける誤答分析	9-37
英語の音声表記	
—— その目的と用法	10-⑤
木村 俊彦	
ダルマキールティにおける世俗諦と勝義諦	1-3
『善の研究』についての解釈学的考察	4-1
神秘主義の哲学的基礎付け	5/1
神秘主義の哲学的基礎付け (続)	6-1
神戸 博一	
インドの主知主義的救済理論	
—— M.ウェーバーの宗教社会学において	1-133
M.ウェーバーの宗教社会学における神秘主義 (1)	4-167
M.ウェーバーの宗教社会学における神秘主義 (2)	5-93
M.ウェーバーのゼクテ論	10-⑮
小西 中和	
ジョン・デュウィの政治思想についての一考察	
—— 政治認識における「道具主義」的方法をめぐる	1-27
ジョン・デュウィにおける政治認識の方法的形成についての一考察	2-11
1930年代におけるジョン・デュウィの政治論についての一考察 (1)	3-25
1930年代におけるジョン・デュウィの政治論についての一考察 (2)	4-33
ジョン・デュウィの宗教論についての一考察	6-31
篠田 一夫	
Contrepèterieの理論と実際	2-45
フランス語アナグラム辞典作成の試み	
—— 語学研究におけるパーソナルコンピュータの利用例	6-95

島津 貞一

薬物乱用・少年非行との関連考察	3-113
経営心理学・草稿	4-101
内田・クレペリン精神検査の課題	5-39
人間学的心理学の課題	6-159
人間学的心理学の課題(2)	7-111
人間学的心理学の課題(3)	8-63
「アメリカ西海岸における精神障害のための Community Care を観る」 の Tour に参加して	8-149
「精神障害」についての課題	9-143
「精神障害」についての課題(Ⅱ)	10-⑬

白幡 富夫

F.A.W.ディースターヴェークの幼児教育思想	1-157
授業の規定要因と授業観察の視点 —— F.A.W.ディースターヴェークが 提起した授業規則(原則)を手がかりとして(その一)	2-135
授業の規定要因と授業観察の視点 —— F.A.W.ディースターヴェークが 提起した授業規則(原則)を手がかりとして(その二)	3-171
授業の規定要因と授業観察の視点 —— F.A.W.ディースターヴェークが 提起した授業規則(原則)を手がかりとして(その三)	4-193
熟練教師の授業と教育実習生の授業 —— 中学社会科授業の比較	5-99

白幡 富夫、白幡 久美子

「ワシントン大学プログラム」と「ポータージ・プログラム」(第一報) —— 両者の比較と二足歩行獲得までの粗大運動領域の新プログラムの開発	7-171
「ワシントン大学プログラム」と「ポータージ・プログラム」(第二報) —— 新粗大運動プログラムに基づく指導の原則・方法及び指導事例の成果	8-113
親のためのダウン症児早期教育プログラム(言語・認知領域) の開発とそれに基づく臨床的事例研究(1) —— 奇蹟を起こす早期教育の条件とダウン症児の特徴	10-⑰

曾根 暁彦

ジョサイア・ストロングと彼の Nationalism	3-101
ニューイングランドにおけるハーヴァード神学派とイエール神学派	5-15
W.D.P.ブリスの社会福音運動	7-37
東海女子大学紀要第10号に寄せる	10-ii

高木（北山）眞理子	
REVIEW COMMENT : Recent Trend of Theories of Social Class and Ethnicity	9- 49
ハワイに生きて	
—— 日系二世のオーラルヒストリー (1)	10- ⑥
高橋 悌蔵	
序	1- 1
谷村 義勝	
2次体 $Q(\sqrt{97})$ における非ユークリッド点	2- 39
3辺と面積がともに整数となる3角形	3- 45
電算機による非同時最小値	
—— 2次体 $Q(\sqrt{97})$ の場合	7- 1
中山 功	
ホイスラーのパネル作品	1- 13
ホイスラーの屏風	2- 1
一九三〇年協会	
—— その写実論をめぐって	3- 1
ホイスラーのテン・オクロック	6- 9
ホイスラーと現代絵画	
—— テン・オクロックをめぐって	8- 17
ホイスラーと伝統	10- ③
野田 義一	
表層構造と深層構造	
—— 現代教育改革への手掛りを求めて	1-141
道徳の本質と道徳教育 (1)	
—— カントの第一批判の研究をめぐって	3-153
道徳の本質と道徳教育 (2)	
—— M.シェーラーの実質価値論理学をめぐって	4-175
道徳の本質と道徳教育 (3)	
—— カントの第二批判の教育学的考察	6-203
認識（知）と人格（意）の相互関係的考察	7-149
児童生徒における思惟の成立の教育的考察	8-127
身体的思考	
—— その教育学的考察	9-159
野田 昌代	
インダゾールの励起状態における分子間プロトン移動	4- 53

長谷川 博一	
青年期男女にみられる問題行動傾向の構造	9 - 75
青年期における問題行動傾向と自己評価的意識の関連	10 - ⑨
八田 重雄	
<i>It- Seems</i> 構文に関するメモ	1 - 81
浜田 美佐子	
エミリー・ディキンソンの手紙と詩に見られる話し手と聞き手	9 - 23
世界と「私」との対話	
—— エミリー・ディキンソンとラルフ・ウォルドー・エマソン	10 - ④
松野 達雄	
社会学的思考様式の存在論的考察	1 - 103
谷田部論文への付論	2 - 131
宗教社会学への一視点	3 - 139
シャーマニズム的集団気質	5 - 73
人倫主義的集団気質	6 - 183
実証主義的集団気質	7 - 129
演劇主義的集団気質	8 - 93
宮本 邦雄	
ラットにおける吸乳行動に関する研究	1 - 89
種間比較による吸乳行動に関する一考察	2 - 99
ラットにおける吸乳行動から摂食行動への移行に及ぼす早期離乳の影響	3 - 131
ラットにおける母性フェロモン研究の動向	4 - 115
ラットの吸乳行動に及ぼす母親の腹部洗浄及び授乳姿勢の影響	5 - 53
離乳をめぐる諸問題	8 - 79
ラットにおける授乳—吸乳行動を中心とした母子相互作用の研究	9 - 103
校條 善夫	
情報環境と情報行動	10 - ⑩
矢澤 久史	
部分強化理論の展開	5 - 61
ラットにおける系列学習研究の動向 (1)	
—— S. H. Hulse と E. J. Capaldi の対立	6 - 171
ラットの強化系列学習における認知過程に関する研究	10 - ⑭
谷田部 武男	
シンボリズムとしての宗教と経済	
—— パーソンズ宗教社会学におけるマルクスの位置	1 - 121

晩期パーソンズの「社会学的認識論」 —— ヒューマン・コンディションのパラダイムをめぐって 社会学的概念としての健康と病気 —— T. パーソンズの医療社会学における「病人役割」分析の意義	2-111  4-147
山田 正雄 エマスンとカーライルの超絶主義思想 Thoreau と Emerson の類似と異質 —— 自然と社会について	 9- 65  10- ⑧
横田 忠輔 Robert Penn Warren の <i>A Place to Come to</i> 再考 Robert Penn Warren の民主主義精神	 2- 81 4- 61
吉田 三雄 Plymouth から Plymouth へ	 2- 69